

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

2021年度

| | | | | | |
|------|-------------|-----|-------|---------------|---|
| 法人名 | 社会福祉法人苗場福祉会 | 代表者 | 湖山 泰成 | 法人・事業所の 特徴 | 法人:苗場福祉会は、本年度創立29年を迎える。新潟県十日町市に厚生連から譲渡されリニューアルオープンした特養「なの花」を含め施設数22施設、職員数1300名以上を擁する法人へ成長した。次年度は新規事業として3施設の開設を予定。法人として更なる成長と確実な事業運営を推進していく。 事業所:開設8年目を迎える。様々なライフスタイルから、多様化するお客様のニーズに応え柔軟な対応ができるように地域関係機関との連携を図り、お客様が「住み慣れた地域での暮らし」が継続できるように支援している。 |
| 事業所名 | 健康倶楽部むさし野の森 | 管理者 | 吉木 康子 | | |

| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
|-----|-------|----------|-----------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|----|
| | 1人 | 0人 | 2人 | 0人 | 0人 | 1人 | 0人 | 3人 | 0人 | 7人 |

| 項目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|-------------------------|---|--|--|---|
| A. 事業所自己評価の確認 | 職員連絡ノートや業務日誌等の確認書類は、事務所で管理し出勤後職員は事務所内で確認。お客様や業務に関する必要な情報を確実に収集し、適切なケア及び円滑な業務遂行に努める。 | 申送りノートにファイリングはしていないが、新規のお客様の情報は、主に個人票にまとめ、新規利用者(体験利用者)ファイルで事前に確認できるようにしている。 | ・施設内の様子が分からないと評価が難しい。 | ・引き続き職員連絡ノートや業務日誌等の確認書類は、事務所で管理し出勤後職員は事務所内で確認。お客様や業務に関する必要な情報を確実に収集し、適切なケア及び円滑な業務遂行に努める。 |
| B. 事業所のしつらえ・環境 | 地域密着型サービス事業所としての役割を担うため、今後も防犯及び感染対策を講じながら地域に向けて施設を開放していく。 | ・コロナ禍で施設を開放することができなかったが、「子ども110番」に登録し看板を掲示するなど入り易い雰囲気づくりに努めた。 | ・慣れてしまえば気にならないが、道路から玄関までの距離があるので、正直、入り難い雰囲気だと感じる。ハード面は変えようがないけど。 | ・地域密着型サービス事業所としての役割を担うため、今後も防犯及び感染対策を講じながら地域に向けて施設を開放していく。 |
| C. 事業所と地域のかかわり | 事業所開催の認知症カフェや施設行事、地域活動への参加等、コロナウイルスの情勢を確認しながら再開していく。また、認知症カフェ開催に併せた介護相談窓口や栄養相談は、行政の協力を仰ぎながら活性化に向けて取り組んでいく。 | ・新型コロナの影響により、認知症カフェの再開、地域活動等への参加は、出来ていない。 | ・隣の特養ケアカレッジの印象が強く、一緒に施設という印象が強い。 ・施設長さんから「困ったらここに来てください」と言われたことが心強く思っている。 ・コロナ禍でやむを得ずできていない。 ・この時勢で、しょうがない。 | ・事業所開催の認知症カフェや施設行事、地域活動への参加等、コロナウイルスの情勢を確認しながら再開していく。また、認知症カフェ開催に併せた介護相談窓口や栄養相談は、行政の協力を仰ぎながら活性化に向けて取り組んでいく。 |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | お客様個々の希望にあわせた外出や地域行事への参加、通いなれた病院への通院は、ご家族様と連携を図りながらご本人と地域との関りが継続できるように支援していく。感染症においては、保健所の指示に従い対応。速やかに行政やご家族様に報告・連絡し発症に備える。 | ・新型コロナの影響により外出行事や地域行事への参加は出来ていない。 ・通院に関しては、ご家族の付き添いが難しい方は、職員が同行してかかりつけ医への受診が継続できるように支援している。 ・感染症に関しては、現在のところ発生件数はゼロであるが、BCPを作成し有事に備えている。 | ・この時勢だからしょうがない。 ・地域の行事やイベントもコロナの影響で中止になっている。 ・コロナの中、よくやっているのでは。 | ・コロナウイルスの情勢を確認しながら、外出行事等、感染対策を講じ可能な形で再開していく。 ・感染症に関してBCPを作成しているが、必要に応じて内容を改訂していく。 ・通院に関しては、ご家族と連携しながら、かかりつけ医への受診を継続できるように支援していく。 |
| E. 運営推進会議を活かした取組み | 運営推進会議は、コロナウイルスの情勢を確認しながら感染対策を確実に講じ開催していく。認知症カフェでの介護相談や事業所への相談案件を会議体で事例検討ができるように準備していく。運営推進会議構成メンバー増員への働きかけにおいても、感染症の状況を確認しながら再開していく。 | ・運営推進会議は新型コロナの情勢を確認しながら開催できている。 ・新型コロナ為、認知症カフェが実施できていない状況であり、運営推進会議構成メンバー増員への働きかけも再開できていない。 | ・運営推進会議構成メンバー増員とは、どのように考えているのか？ ・説明資料が以前より少なくなったように思われるが、口頭でも分かりやすく説明している。 ・地域の人に「あそこに相談に行けばいいのだ」ということをもって周知する工夫が必要では。例えば、地域の回覧板を利用するのもひとつの方法だと思う。 ・地域での取組みも行えていない状況。 | ・認知症カフェについては、コロナウイルスの感染状況を確認しながら今後も開催していく。認知症カフェ等で受けた相談案件については、運営推進会議でも報告、事例検討ができるよう準備していく。 ・施設が地域の相談窓口としての役割を担っていることを地域の回覧板などを利用して周知していく。 ・運営推進会議については、コロナウイルスの情勢を確認しながら感染対策を講じ開催していく。会議構成メンバーの増員についても感染状況を確認しながら、ご家族等へ参加を呼び掛けていく。 |
| F. 事業所の防災・災害対策 | 防災訓練、自主訓練は年間計画に則り実施していく。地域住民参加型の施設防災訓練は、地域の防災訓練や自治会活動の動向を確認しながら参加を呼びかけていく。 | ・防災訓練、自主訓練は年間計画に則り実施できているが、今年度も消防署の立ち合いは中止になっている。 ・今年度も地域住民参加の呼びかけは、中止している。 | ・新型コロナの為、地域の防災訓練も行われていないが、以前参加していた実績があり、参加する意向があることは承知している。 ・施設で火災などが発生した時に近所の人々が直ぐに駆けつけてくれたら心強いと思う。 ・地域の消防団と連携を図るのもいいのでは？ ・自販機を災害対応型に変えるだけでも地域にとって助かると思う。 | ・防災訓練、自主訓練は年間計画に則り実施していく。地域住民参加型の施設防災訓練は、地域の防災訓練や自治会活動の動向やコロナウイルスの情勢を確認しながら参加を呼びかけていく。 ・自販機を災害対応型へ変更する件については、今後協議し、検討していきたい。 |